

## 第1回吹田健やか年輪プラン推進委員会議事録

### 1 開催日時

令和元年（2019年）11月22日（金） 午後2時開会～午後4時1分閉会

### 2 開催場所

吹田市役所 低層棟3階 研修室

### 3 出席委員

石倉 康次委員（立命館大学 産業社会学部 特別任用教授）  
志藤 修史委員（大谷大学 社会学部 教授）  
三木 秀治委員（一般社団法人 吹田市歯科医師会 副会長）  
杉野 己代子委員（一般社団法人 吹田市薬剤師会 副会長）  
岩脇 ちゑの委員（吹田市民生・児童委員協議会 会計監査）  
岸下 富盛委員（吹田市高齢クラブ連合会 会長）  
岩本 和宏委員（吹田コスモスの会（認知症家族の会） 会長）  
長江 秀信委員（吹田市介護保険事業者連絡会 会長、居宅介護支援部会 実行委員）  
富士野 香織委員（吹田市介護保険事業者連絡会 幹事、訪問介護部会 部会長）  
平野 謙一郎委員（吹田市介護保険事業者連絡会 幹事、通所介護・通所リハビリテーション部会 委員）  
上山 美紀委員（吹田市介護保険事業者連絡会 訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問入浴部会 委員）  
上條 美代子委員（市民委員）

### 4 欠席委員

8名

畑 茂樹委員（一般社団法人 吹田市医師会 理事）  
櫻井 和子委員（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 副会長）  
中谷 恵子委員（吹田市ボランティア連絡会 副会長）  
吉川 征志委員（吹田市介護保険事業者連絡会 介護保険施設部会 委員）  
清水 泰年委員（公益社団法人 吹田市シルバー人材センター 参事）  
菅沼 一平委員（吹田市認知症カフェ交流会 役員（大和大学保健医療学部総合リハビリテーション学科 講師））  
柴田 敏之委員（大阪府吹田保健所 所長）  
坂手 裕子委員（市民委員）

## 5 会議案件

### 1 開会

### 2 福祉部長挨拶

### 3 委員紹介、職員紹介

### 4 委員長・副委員長の選任について

### 5 案件

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画及び第8期計画策定について

(2) 第7期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019年度）について

ア 第7期 施策及び地域包括ケアシステム構築のロードマップ進捗状況

イ 介護給付費分析

ウ 保険者機能強化推進交付金について

(3) その他

## 6 議事の経過

〔開会〕

〔福祉部長挨拶〕

〔委員紹介・職員紹介〕

それでは、まず、委員長の選出に先立ちまして、第7期吹田健やか年輪プラン推進委員会の位置付けから御説明いたします。

資料1の1ページ「計画推進委員会規則」を御覧ください。

推進委員会の任務につきましては、規則第2条の規定のとおり、「吹田健やか年輪プラン」の策定や、推進に関する事項、また地域包括ケアシステムの構築に関する事項等について、市長の諮問に応じ、調査審議し、答申するものとしています。

組織といたしましては、第3条に規定のとおり、学識経験者、市内の社会福祉を目的とする団体又は公共的団体の代表者、介護保険事業又はその他の高齢者の福祉に関する事業に従事する者、関係行政機関の職員、市民から市長が委嘱し、20名以内で組織されるものとしており、任期は3年としています。

委員長及び副委員長につきましては、第4条に規定のとおり、委員の互選により定められています。

また、本日委員会につきまして委員20名のうち12名が出席されており半数以上の出席があります

ので、第5条第2項の規定に基づき会議が成立していることを御報告させていただきます。  
それでは、次第の3、委員長・副委員長の選任に移りますが、御意見はございますでしょうか。

〔委員長選任〕

石倉 康次 委員

〔副委員長選任〕

志藤 修史 委員

〔委員長挨拶〕

〔副委員長挨拶〕

〔傍聴者の報告〕

事務局：

本日の傍聴者は1名でございます。希望者が5名以内ですので全員の方に入室していただきます。

〔案件（1）：高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画及び第8期計画策定について〕

事務局：

（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画及び第8期計画策定について及び第8期計画策定・推進体制、スケジュールについて説明）

委員長：

現在、第7期の真ん中の年で、今年度は進捗状況の確認と第8期計画策定に向けた調査を進めていくとのことでした。調査報告書と第8期の策定は来年度ということですが、今の説明について何かございますか。特に無いようですので、次の議題に移ります。案件の2吹田健やか年輪プラン中間報告アロードマップ進捗状況について、基本目標1、2の説明を事務局お願いします。

〔案件（2）：第7期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019年度）について

ア ロードマップ 進捗状況 〕

事務局：

（第7期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019年度）アロードマップ進捗状況について、基本目標1、2を説明）

委員長：

基本目標の「生きがいつくりと健やかな暮らしの充実」「相談支援体制の充実」の2つの柱に係る報告をしていただきましたが、御意見ございますか。口腔ケアのことについて、お話がありましたが、これについて何かありますか。

委員：

まず、75歳以上の方への口腔機能検査について、これは大阪府の広域連合が実施する後期高齢者医

療の健診の範疇かと思いますが、吹田市ともデータのやり取りはあるかと思うので、今後 75 歳以上の後期高齢者の検診結果については、教えていただきたいと思います。また、在宅要介護者・児訪問歯科健康診査事業等は、歯科医師会が市と一緒に実施しております。他にも、厚生労働省や大阪府の事業も含め、歯科医師会は高齢者に対して幅広いサポートを行っています。

**委員長：**

具体的な取組状況を御報告いただきありがとうございます。続いて、生きがい活動センターについての取組については何かありますか。

**委員：**

まず生きがい活動センターとは、吹田市高齢クラブ連合会が吹田市から委託期間 5 年で指定管理事業者として委託を受け、運営しているものです。場所は、南千里駅前の千里ニュータウンプラザの 5 階のスペースを活用し、高齢者の生きがいづくりや介護予防活動の拠点として年間 5 万人以上の方々に御利用いただいています。

利用者数は年々減少していますが、その理由として、当初から会員になっている方の再利用がないこと、新会員になる方が比較的少ないことなどが影響しているものと思います。今後努力し、挽回が必要と考えています。

いきがい教室も、市からの委託事業ですが、現在 20 教室の運営をしています。生きがい活動センターや総合福祉会館等で開講しており、前年度の受講者数は 6,720 人です。講座の内容につきましては、いきがい教室の受講者アンケートの結果を反映しており、今年度はソフトフラスメンコと川柳の教室を新たに開講しました。

社会奉仕活動としては、生活に困りごとのある 75 歳以上の独り住まいの方や、夫婦ともに 75 歳以上の方に対して、会員であるか否かに関わらず、手土産を伴って訪問活動を行っています。

女性会員による組織の活性化については、女性リーダーのための研修を開催したり、吹田市高齢クラブ連合会の各機関における女性役員の登用を推進したりと、女性会員のニーズに合った組織へと改革しようとしています。

高齢者いこいの家に関しては、囲碁、将棋、カラオケ、麻雀等、世代間交流を含むサロン活動の場として定期的に利用しています。こちらは高齢クラブの会員以外にも参加を呼び掛けています。

今後の取組としては、生きがい教室の受講者に同好会への参加を促すことや、生きがい活動センターの運営を通じて、高齢者の生きがいづくりや健康づくりに貢献したいと考えております。

**委員長：**

工夫されながら取り組んでおられる状況が分かりました。続いて、民生委員の取組について何かありますか。

**委員：**

民生・児童委員協議会は吹田市では 22 地区にありまして、民生委員は全体で 479 人ほどございます。高齢者に関する具体的な活動として、毎年 9 月頃に行う敬老会や、高齢者に対する米寿の祝賀品の配布等がございます。

また、安心安全カードを 75 歳以上の方への配布回収等を行い、カードに記載された情報は災害時等

の緊急時に活用しています。

高齢者の居場所づくりのために、75歳以上の独居高齢者に対しては、2ヵ月に1回ほどのペースでふれあい昼食会という活動を、独居ではない高齢者等については、いきいきサロンという活動を毎月行っています。

このような催しの案内状をできる限り直接手渡しすることにより、高齢者の安否確認を行っています。しかし近頃はマンション住まいの方に直接お会いすることが難しいので、電話をかける等の方法で見守り活動に努めています。

民生委員は、一人一人の顔を見て困りごとを聞くことが多いので、話を聞いたうえで関係機関に繋げることも意識して活動しています。

また、今年の6月に第1回民生・幸齢すまいるフェスタを行いました。まだ駆け出しの事業ですが、来年も引き続き継続し、毎年楽しみにしていただけるようなものになりたいと考えています。

**委員長：**

続いて、介護者離職、家族介護支援について何かありますか。

**委員：**

認知症家族の会としては、住み慣れたところで暮らすということに重点を置いた場合、在宅ケアサービスの充実に重点的に取り組んでいただきたいと考えます。

吹田市はよいところだと思いますが、認知症家族の会には、そのようなサービスから漏れてしまう人が泣きながら訴えてくる方がいらっしゃいます。表に出にくいいうえ、事実関係を取るのが難しい話ではありますが、このような少数派の意見にも耳を傾けていただきたいと思います。

認知症への理解という点について、吹田市は理解のある自治体と言われていますが、大阪府全体でみるとまだ理解が足りないように感じます。医療の関係でも、認知症医療に関するレベルが落ちていることを実感します。認知症専門の先生もたくさんいますが、数が足りていないようです。また、健都に移ってきた吹田市民病院は立派ですが、認知症専門外来が無いことを残念に思います。

認知症の方を守るためには、介護保険の要である地域包括支援センターの職員やその他福祉スタッフは重要です。特に地域包括支援センターの人員の欠員、入れ替わりの激しさが気になります。市役所はその現状を把握しているのだろうかと思うことがございます。

男性介護者についても様々な問題はございますが、中でも高齢者虐待に関する問題については、男性介護者によるものばかりが目立っている傾向を感じます。男性介護者は、虐待をするような方ばかりではなく、献身的に頑張っている方も多いため、その点は理解していただきたいと思います。

認知症家族の会は、認知症の方に安心して住み慣れたまちで元気で暮らしてもらいたい、介護職が笑顔でいられる市になってほしいと思っています。一団体では限界がありますので、関係機関にもそのような市を目指し、様々な取り組みをしていただければありがたいと思います。

**委員長：**

地域で認知症の方をケアしていく、サポート方法について十分ではないという実感を持っておられるとのことでした。取組の部分に、予定でセミナーや地域密着型サービスの整備等書かれていますが具体化を急いでほしいとのことでした。続いて、基本目標3、4について事務局から説明をお願いします。

〔案件（２）：第７期吹田健やか年輪プラン中間報告（２０１９年度）について

ア ロードマップ 進捗状況 〕

事務局：

（第７期吹田健やか年輪プラン中間報告（２０１９年度）ア ロードマップ進捗状況について、基本目標 ３、４を説明）

委員長：

自立支援、介護予防の促進の部分についてですが、何か御意見ありますでしょうか。Ａ評価が多いように思いましたが、それぞれの事業者の立場から何かありますか。

委員：

自立支援について、高齢者でも要支援の方や介護度の低い方で目標を掴みにくい方がいらっしゃいます。ケアマネジャーが研修等で行われている自立支援ですが、本人の意思を尊重してどのように生活していくのかケアマネジメントしていく立場にあります。介護度の低い、自分で色々なことができる方に目がいてしまいますが、ベッド上で過ごしている方であっても、本人の意思をくみ取ってその部分をケアしていくことも重要だと考えています。ケアマネジメント会議については、ケアマネジャーも参加しており、リハビリ職や他の職種と一緒にすることによって多角的な見方ができるので今後も協力していきたいと思います。

委員：

１点質問させていただきます。基本目標 ３のいきいき百歳体操の参加者数が １,８５０ 人となっており、さらに伸びているということですが参加される方の年齢層について教えてください。

事務局：

年齢層は幅広く、６０代後半の方から ９０歳を超えて参加されている方もいらっしゃいます。後期高齢者の方がパーセンテージは多くなっています。現在、いきいき百歳体操を行っているグループに対し、半年に １度フォローアップとして体力測定を行っています。その結果を集約しているところですので、いずれいきいき百歳体操の体力からみた効果をホームページ上で掲載したいと考えています。また、いきいき百歳体操のグループを紹介したプロモーションビデオを掲載したところですので、どのように取り組み、どのような効果を感じているかという生の声を見ていただけたらと思います。

委員：

お若い方から高齢の方まで参加されているとのことですが、在宅のヘルパーの担い手が非常に少なく、ヘルパーの高齢化が進んでいます。基本目標 １でありました高齢者の就労支援について、在宅のヘルパーのお掃除や調理、買い物の部分は高齢者でもしていただけるお仕事かと思います。資格が必要にはなりますが、協力して担い手を増やして ２０２５年、２０４０年を目指していく方がよいと感じています。

委員：

介護事業者としてサービス提供をしています。以前地域でいきいき百歳体操をやっていた方にリハビリをする機会がありました。その方は、社会参加といいますか、御自身に「行きたい」という気持ちがある方でしたが、御病気で歩くこともできないという状況でした。介護サービスを提供している側としては病気が治ってサービスを使っていくことは分かっていますが、地域資源を知らないという部分もあります。地域の資源を活用して外に出ていくということに繋げていくためにも、現場の人間は知っていかなければいけないと思います。

**委員長：**

高齢クラブから介護予防について何か御意見ありますか。

**委員：**

介護予防という点については、高齢者の事業すべてが介護予防に当たります。わたしどもは5つほどの部会に分かれて活動していますが、様々な行事を行っています。スポーツ関係で言いますと、例えばグラウンドゴルフ大会を年に4回実施しており、年間1,320人ほど参加されます。その他、単位クラブごとにも行事をしている状況です。体力測定につきましては、年1回実施していただいておりますので、毎年続けることでそれぞれの体力の変化を見ることができています。文化・教養の活動や社会奉仕活動についても、それぞれ介護予防となっていますのでひとりでも多くの方が参加できるよう工夫をしているのが現状です。

**委員長：**

続いて、基本目標5、6の説明を事務局からお願いします。

**〔案件（2）：第7期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019年度）について  
ア ロードマップ 進捗状況 〕**

**事務局：**

（第7期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019年度）ア ロードマップ進捗状況について、基本目標5、6を説明）

**委員長：**

認知症支援と医介連携ということですが、訪問介護や薬剤師の立場から何か御意見ありますか。

**委員：**

訪問看護では0歳児から100歳以上の方まで幅広く関わらせていただいています。高齢者の事業に係る計画ということですが、高齢者支援については充実してきていると思います。訪問介護において、狭間の方々、障がいのサービスにも高齢のサービスにも引っかからない方がいらっしゃいます。65歳になっていない方で介護保険制度における第2号被保険者の要件にも当てはまらず、糖尿病や腎臓病などで障がいの認定も受けられない方について、医療的ケアが必要ということで病院からの依頼を受けて訪問しますが、ケアマネジャーもいらっしゃらない、地域包括支援センターにも相談ができないことがあります。どうしても困った場合は保健所に相談し動くこともあります。多職種連携の研修では、病院と切れ目のない医療というところで顔の見える関係性を作っています。看護職はたくさんいますので、声を上げていくことで繋がっていくことができます。ヘルパーやケアマネジャーなどの関

係職種と共に連携していきながら支援していきたいと考えています。

**委員：**

現在、在宅支援に力を入れています。御本人から聞けるのが一番ですが、聞けない場合が多くありますので入院時、退院時カンファレンスに薬剤師も関わることで病院の中での状況が分かるといわれています。病院や薬局の都合でできていない部分もあり、一番の改善点だと感じています。本日、様々なお話を聞き、市が行っている取組について情報の発信を行い、薬剤師会の会員にも周知できればと感じました。

**委員長：**

続いて、基本目標 7、8 の説明を事務局からお願いします。

**〔案件（２）：第 7 期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019 年度）について  
ア ロードマップ 進捗状況 〕**

**事務局：**

（第 7 期吹田健やか年輪プラン中間報告（2019 年度）ア ロードマップ進捗状況について、基本目標 7、8 を説明）

**委員長：**

基本目標 7、8 では C 評価の項目も出てきています。これについて何か御意見ありますか。

**委員：**

市として非常に頑張っておられると思いますが、バリアフリーの部分については予算の問題もありますし、これだけ災害が続くと厳しく感じます。道路のバリアフリーができなかったら終わり、ではなくもう少し人のバリアフリーが進めばいいなと思います。人的資源、先ほどから皆さんもおっしゃっているとおりそれぞれの資源を活用して、出かけた方が出かけられるような仕組みが、吹田市では住民によってできているように感じています。バリアフリーについては進めていただきたいですが、ソフトの部分で人を上手く活用することも必要かと感じました。

**委員長：**

他に御意見ありますか。

**委員：**

基本目標 8 の部分で、介護フェアを通じて求職者と事業者のマッチングを行うとあります。ただ、介護フェアの課題として集客が難しいという点が挙げられます。今年は屋台等で集客し繋ぐことを考えましたが、なかなか繋がりませんでした。来年度はイメージアップ等についても市と取り組んでいければと思います。

**委員長：**

介護フェアについて事務局から何かありますか。

**事務局：**

介護事業者連絡会の皆さまとは意見交換をさせていただいており、介護フェアの課題についても市としてどう取り組んでいくか検討しているところです。コミュニケーションを取りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

**委員長：**

では、基本目標についての議論はここまでにして、介護給付費分析、保険者機能強化推進交付金について事務局からお願いします。

**〔案件（２）：第７期吹田健やか年輪プラン中間報告（２０１９年度）について  
イ 介護給付費分析、ウ 保険者機能強化推進交付金について 〕**

**事務局：**

（第７期吹田健やか年輪プラン中間報告（２０１９年度）イ 介護給付費分析、ウ 保険者機能強化推進交付金について説明）

**委員長：**

現状について、御説明いただきましたが何か御意見ありますか。無いようですので、その他について事務局から何かありますか。

**〔５ その他 〕**

**事務局：**

（社会福祉審議会の設置について、次回の開催日程及び検討内容について説明）

**委員長：**

限られた時間で、内容が非常にたくさんありました。最後に今回はじめて参加された副委員長より総括的に御意見をいただきたいと思っております。

**副委員長：**

皆さん色々と御意見をいただきありがとうございました。具体的な計画の状況について、言葉だけでは分からない部分を補足いただいたり、課題の提案をいただいたりして、より我々がやるべき評価の内容や次期計画に向けての課題の内容が明らかになったと思います。この計画における８つの基本目標は相互に関係しているものですので、それぞれ進めればよいというものではなく、関係性の中をどう整理していくのかということも次の課題かと思っています。本日皆さんからお出しいただいた意見において、ひとつ焦点になっているのは事業者と地域をどう繋ぐのかという部分です。情報交換や、繋ぎ方をもう少し工夫しなければ示されている計画の中で上手くいかない場面が出てくるように思います。民生委員の立場から、繋ぐ役割があると明確におっしゃっておられましたし、薬剤師会からも各局で来客された方に情報提供をして施策を知ってもらい繋ぎ役ができるのではないかと提案があり、また、歯科医師会からも健診から繋げるとお話をいただきました。また、医介連携の部分についても家族や病院を繋ぐという課題があったように感じます。ただ、第７期計画の

中間で大きな課題として出てきているのは、担い手の問題です。これは吹田市だけに限ったものではありませんが、全市を挙げて取り組んで行かなければならない局面に来ていると感じます。その中では高齢者の方に社会の中で活躍していただくことも循環的に考えていった方がよいのではないかと思います。もう一つの課題は、サービスの範囲としてターゲットとなっていなかった少数の方の問題があるように思います。サービスの整備が進まないという問題もありましたが、そもそもサービスの対象になっていない方々、課題の提起が難しい方々をどのようにキャッチして施策に反映していくかを問われていると思います。本当に困っている方へのサービス提供が重要だと述べられている委員もいましたが、私も同様に感じています。その部分については、8つの基本目標を進めつつ、その対象となっていない方について次期計画に向けて知恵を突き合わせて行きたいと思います。仕組み作りとしては、繋いでいく仕組みをどうしていくのか。課題としては、担い手の問題と少数の方の問題をどのように顕在化して施策の対象として捉えていくのかが今後の評価に繋がっていくと思います。全体としては、熱心に進めており、行政として頑張っておられるのは伝わってきました。

**委員長：**

総括的に本日出た論点や課題についてまとめていただきました。本日、時間が無く言い残したことがおありかと思いますが、引き続き第7期計画の後半期に向けて目標達成いただきますよう取り組んでいただければと思っています。これで、本日の推進委員会を終了します。